

山紫海碧

有銘幼小中学校
学校便り131号
山紫に海碧く
H28.1.26

有銘校の得意技、英語で異年齢交流学習する

五・六年生の英語活動と中二年生の英語の授業を一緒に行う異年齢交流学習が二十一日（木）にあった。

今回、五・六年生に与えられたミッションは、探偵になりきって、英語を使って犯人を捜すことだ。

説明の後、三グループに分かれて捜査開始。五・六年生達はあらかじめ設定された質問を中二年に英語で問うのだ。



質問された中二年は、設定された答えを英語で返す。このやりとりで、誰か泥棒の犯人かを推理していくのだ。

あき子先生の出題する英語クイズに答えられると、マネーがもらえ、そのマネーを使って、ウォルター先生から犯人捜しのヒントがもらえる仕組みだ。

みんな戸惑いながらも楽しそうに問題解決に取り組んでいた。有銘校の得意技である。



「みんなを心から歓迎します。しかし、みんなが今から努力しなければならぬことは、この学園を、この学校を一日も早く出て行くことなのです。」

県立の自立支援施設併設の中学校分校の校長を3年間務めた。そのときの始業式の校長講話の1節である。

一昔前は「教護院」と呼ばれていた所だ。窃盗、暴力、性犯罪、被虐待。彼らの様々な入園理由、生育歴、家庭環境に現代社会のひずみと底知れぬ闇が垣間見え、やりきれなかった。

入園当初、子どもたちの表情には不安と不信、そして疲れが明らかに見て取れた。中には「礼付さごみをきかせる子もいた。」

そんな彼らをいかにして自立に導くか。分校と頼と責任を学ぶ。

ラグビーに学ぶ

第1はフェアプレー。ルール違反は失点につながり勝てない。ルールを知らないと、フェアプレー精神の大事さを心と体で学ぶ。

第2にOne For All。一人のエイズに頼らずチームワークを大事にする。集団と個の関係、仲間への信頼と責任を学ぶ。

第3はダイバーシティ（多様性）。15のポジションの中に自分の個性・特性を活かせる位置が必ずある。自己有能感、自信と誇りを持つことの大切さを学ぶ。

第4にノースайд。ラグビーにフリーガンはない。試合終了後は選手も観客もさわやかだ。同点なら双方優勝だ。互いを人として尊重する態度を学ぶ。

「心と体を鍛えよ。心が体を励まし、体が心を支えるのだ。まっすぐ、前へ、One For All。」

皆様、よいお年を。

百年の伝統がある長崎の自立支援施設が選んだ答えの一つはラグビーだった。全員がラグビー部員。しかし、4月に精円のボールに初めて触った子どもたちが、6月の中体連の大会では強豪恐れず敢然と突き進んでいく。ワントライに喜び、泣く中でラグビーの4要素が彼らを鍛えていく。

近藤 克巳

※記事は、日本教育新聞（九州版）H27年12月28日随想コーナーに掲載されたものを、日本教育新聞社の許諾を得て、転記しました。

ジャガイモ草取り

ジャガイモ畑の草抜きに出かけました。雑草を払い、顔を出しているジャガイモに土をかぶせて完了。間違ってジャガイモの葉や茎も抜きましたか？

